

教員生活に想う

足利市立柳原小学校教諭 富永埋八

大きな不安を抱き、小学校に転勤した私は、一刻も早く初等教育のリズムをは握することに専念した。

- 指導要領を読み、学習内容を知ること。
- 参考書を読み指導方法を知ること。
- 講習会には積極的に参加すること。
- 誠意をもって児童と接する機会を多く設けること。

このように種々さまざまな方法が考え出されたが、数日間の中で私は大きな発見をしたのである。リズムをは握するための最も身近かで、最も効果的なものを。それは現場の大先輩の言葉に耳を傾注することであった。この二つの機会は次のようなものである。

1. 行事予定表の“ことば”に接すること。
2. 諸会合における“ことば”を拝聴すること。

私は一年間、大先輩の“ことば”を一字一句もみらず詳細に記録することに専念した。現在三年間の勤務を終ろうとしているが、リズムの中でリズムをもって生活できることを、大きな幸福だと信じている。

新学年スタートに当って

「短距離の競走においてその勝負を決定する最も大きな要因は、スタートダッシュにある。私たちの昭和40年の学校経営もそのスタートダッシュにおいて、おくれをとるようではいけない。児童の休み中に最大の能率をあげあらゆる準備を終了しておくことが大切である。新学年の出発に当り、大いなる希望をもって大いにはりきってもらいたい。」

教育活動の中で中心に考えなければならない事は、「常に子どものために」ということであろう。より効果があがるように、子どもをよりよくするために努力することこそ教師の使命であると思う。このような事からも休み中に準備完了させておくことは、必要なことであろうと思われる。今年も2ヶ月足らずで新年度をむかえるわけであるが、今からその心構えでいなければいけないと覚悟を新たにするものである。

掃除の監督は必ずすること、児童を掌握するためによい機会である

本校に着任して校舎内の清掃がゆき届いているのには驚いた。整理整頓がなされ、清潔なふん囲気を持った教場とそ理想な学習がなされる場ではなかるうか。それだけでなく作業を通して収穫できる精神的なものは実に偉大なものであると信じている。生活の近代化とともに古きものが失なわれつつある現在ではあるが、心とおし、体をおして自分たちの教場を磨くという作業はいつまでもい

つまでも続けたいものである。

先生は環境の一つである。中庸の服装を。

私は師範学校に進学する前、一年間の助教を経験した。ある日、先輩の本だなから「教師の実践録」という本を見出した。その中には「教師は生きた環境なり」という言葉があった。服装についての指導を受けた私はすぐこの言葉を思い出したのである。服装はもちろんのこと、言葉づかい、板書……一挙一動、教師の持ちそろえているものは全てが児童にとっては直接的な環境物になるものなのだ。とにかく児童は神仏のようであるのだから、教師自身も清浄な素直な心を抱き接触すること心がける必要がある。何事にも真心をもって当り、意志をもって人を作るの精神を忘れてはいけいである。

出勤簿の押印を忘れないように

(押印した時が出勤である。)

中学校には出勤札がない。出勤簿があっても何日かまとめて押印するということもめずらしくなかった。まことに大ざっぱそのものである。小学校では出勤するとまず出勤札をかえし、出勤簿に押印する。それだけでなく左胸に名札をつける。学校には外部からよく電話がかかる。その都度放送で児童を呼びだししなければならぬ。また、児童が先生をさがすことが少なくない。このような時に出勤簿が非常にものをいうのである。何といてもいちばん困る時は出勤時間外である。果してその先生の退庁されたのかどうか。こんな時には必ず出勤札で判断するのである。最近のようすをみると退庁の時間があまり好ましくない。押印の状態が良好だけに出勤札が悲しまれるのである。校外勤務のためわずかな時間、学校を留守にする場合でも私は出勤札をかえしている。これは助教時代の経験が現在で習慣化されているからであろう。

◇ 一時間一時間の勉強を油断するな。

— 児童朝礼にて —

われわれだけでなく、児童にも一時間一時間の勉強の大切さを教えていられる。

— 私たちに対しては —

- ・毎時の勉強をよく指導されるように。(学習態度の訓練)
- ・先生が説明する以上はわからせること。徹底させる心構え、身構えが必要である。
- ・教室のすみずみまで教師の気持ちの広がりが見られるように。

このような御指導を受けて三年間が経過しようとしているが、最近、自己反省するに、私の授業もちょっと本物になりつつあるような気がする。

アカシヤの花

「今年もアカシヤの花が咲いた。校庭の緑地帯の中に今年もアカシヤの花が咲いた。うっかりすると目につかないような花だが、よく見ると真白な小さな房になったよい花だ。バラの花のような濃えんさはないが、つつましやかな清潔な感じを与える花だ。みてやってほしい。アカシヤの花を。そして

ほめてやってほしい。他にもこのようなことは一ぱいある。互いに用心すべし。」

私には弱い面が多々あるが、こと植物に関してはまったく弱いのである。先輩に言われ、理科主任に言われて、始めて目を向けたような次第である。師範生の時には生物の時間が非常に苦痛に感じられた。でも教員になるためには、どうしても履修しなければならないことである。名前を覚えるために採集した植物を寮の部屋へ持ち込み、針金につるしたものである。

先輩は次のようなことも言われていた。

- ・教師が注意してあげる。(洞察力)
- ・環境がよくても見る力がなくてはならない。

確かに児童は知らないことだらけである。教育の幅は広く深いものである。それだけに教師が細々と児童に注意してあげることが必要なのであると痛感した。今後、自己の弱い面が充実されるよう努力を惜しまない覚悟である。

小学校の教員は、なんでも知っていなければいけない

6月中旬ごろ、先輩から「小学校の教員は全教科担当しているのであるから、なんでも知っていなければいけない。」と言われた。それに関して、「いろいろな面について研修すること。自分の勉強のために研修に努力すること。」というような話がつけ加えられた。

また、大先輩は「指導方法や指導技術において根本となるものは愛情である。」と言われた。

中学と違い、小学校の教員は本当にたいへんなものであると痛感した。しかしこれが教員の本来の姿であろうと信じている。最近とはかくいろいろなことが、無責任に言われているが、昔の教師は実力者であったと私は思っている。確かによく勉強もなされ、よく仕事もなされたのではないかと思っている。よく会合に出席してみると、学者が言われるような理論をぶちまけているが、何か軽率な感が抱かれぬものでもない。児童を本当に愛しているならば児童に直結するもの、児童のためになるべきものをわれわれは勉強しなければならないであろう。われわれは教育の現場にいる実践家なのだということを忘れてはいけない。

よい季節じゃないか

「今、ちょっとの間が、ほんとうによい季節だ。このよい時を逃がしてはならない。教師も児童もじっくりと内面にむかって深く掘りさげるよい機会である。空の明かるさも、すみきったその色も私たちの思索を無理なく誘ってくれるのである。秋とは今ごろのことをいうのであろう。本を読んで考えることがこのような仕事をさせるよい手がかりになると思われる。秋の夜長、すだく虫の声、はるか童心にかえらしむるものがある。」

いつか大先輩が次のようなことを言われた。

「先生方は一体、どのくらいの本を読んでいるのか。」

私はまたしても痛い所を突かれたのである。精神的な栄養を最近ほとんどとってないのである。学生のころは東京の神田まで本を求めに行ったものである。新卒のころもずいぶん本を買い集めたものである。最近では単行本を読む機会が少なく月刊雑誌五冊に目を通すのが精一杯である。機会は作るものである。仕事のいそがしい現在ではあるが、積極的に勉強家になることに努力すべきであると思

っている。教職教養を身につけながら一般教養を忘れることなく。

氏家小学校を視察して

- ・調和のとれた学校教育（全人教育）
- ・教師・児童 — 礼儀が正しい。
- ・自主的な学習がなされている。

現在、各家庭ではどのようにしつけ、礼儀等がおこなわれているのであろうか。昔と比べ非常に軽視され、軽く指導されているような気がしてならない。家庭で当然なされなければならないことが、学校に多くはいつてきているような気がする。といて、学校でもそれらを真剣に取り扱っているとも思えない。教育者であるわれわれ自体に非常に欠けていることがあるのではないかと思われる。ある書物の中で見た言葉であるが、「教師たる前に、まず一個の人間たれ。」というのがあった。他者の言動を見て自分のいたらない所を知り、それを身につけるべく努力しているのだが、なかなか思うようにいかない。われわれは人としての生き方をもっと学ばなくてはいけないであろう。これ等のことは先輩諸氏にも責任があるような気がする。大体现職教育の中で一般教養に関する内容の取り上げが少なく、貧弱でもあると思われる。教育者は広い視野に立って物事を眺むべき必要があるわけだが、案外、必要感に迫られていないのではないだろうか。

新年のことば

過ぎ去った年の、よくない思い出はみんなきれに忘れるんだよ。今年こそ生れかわるんだ。そして自分の力の限りを出し切れるように生きるのだ。まわりの人に気をとられず自分の全力をつぎこめた時こそ本当の生きがいだ。これも努力したり勇気を出さねばできないのだ。」

最近になって、大先輩がよく言われる言葉で「本気」「本腰」というのがある。人間、どのような仕事をする場合でもこの言葉が当てはまることと信じている。生きがいを感じるだけでなく非常に美しい姿として見られることではなかるか。そしてその根底には「努力」と「勇気」が潜んでいるものと私は思っている。人々の性格により、それが動的なものとして、また静的なものとして表現されるであろうか。

未来に希望を

未来に希望を、過去に美しい思い出を。若さは小さいながらも未来に希望をもつことから生まれる。常に若くありたいものである。過去には何時も美しい思い出をたくさんもちたいものだ。そうすれば毎日が楽しいのだ。楽しい毎日よ来い。」

仕事に追われず、仕事を追いかけるようにならなければいけないとよく言われるが、雑務に追われる時は、やゝもすると自己を見失うような事もたびたびである。未来に希望どころか、灯が消えるような心理状態になる事もたびたびであった。でもこのような時に、ふと先輩の言葉を思い起こす時もあるのだ。「仕事に軽重をつけ、よく整理して計画的に進める」と、われわれ教育者の仕事は非常に幅広いものがあるので、必ずそこには希望の灯を数多くともすことができるはずである。大先輩が言われるように、過去に美しい思い出がたくさん残せるように、毎日、毎日の生活が充実できるよう勇気をもって努力する覚悟である。

日々を大切にすることを思い出すままに書き下したわけですが、諸先輩の御批判をいただければ幸福だと思っております。再度繰り返しますが、大樹の蔭にて教員生活を送られることを非常に幸福者だと思っております。このようなことに甘えることなく、大先輩の言葉が身に定着するよう今後、努力を惜しまない覚悟であります。これこそ大先輩に対する御恩がえしではないかと存じております。